

重点施策

(1) 「スポーツ×観光」で拓く にぎわいの新時代

アイスホッケーをはじめとする本市のスポーツ文化は、全国に誇る貴重な財産であり、良好な競技環境を求めて多くの選手や観客がこの地に訪れるなど、本市の魅力を発信し交流人口を拡大させるための極めて重要な要素です。

令和8年度は、スポーツ都市宣言60周年にあわせ、選ばれるまちプロジェクト第2弾“スポーツシティとまこまいプロジェクト”、略称“スポとまPJ”を展開し、より多くの市民の皆様がスポーツに触れる機会を創出するなど、スポーツを通じた地域活性化に取り組んでまいります。

特に7月には、サッカーJ1 名古屋グランパスの夏季トレーニングキャンプが実施され、また、12月には、第99回日本学生氷上競技選手権大会が開催されます。どちらもまちをあげて歓迎し、経済波及効果の最大化に努めてまいります。

今後も、夏季の涼やかな気候や交通アクセスの良さといった本市の優位性をいかし、市外の競技団体、企業、大学などの合宿や全国規模の大会を積極的に誘致してまいります。同時に、観光振興ビジョンに基づき、地域の特性をいかした観光の魅力づくりに取り組み、スポーツツーリズムと地域経済の一体的な振興や、産業拠点都市としての特徴をいかしたMICEの誘致に挑戦してまいります。

また、新たな観光振興施策の財源となる“宿泊税”につきましては、令和9年4月の導入に向けた準備を着実に進めてまいります。

(2) 思いやりの心が育む 安心して暮らせるまちづくり

こども どもんなかアクションによる、まち全体で子どもを支える機運の高まりをそのままに、引き続き“こども どもんなか”のまちづくりに取り組んでまいります。

国のこども大綱や北海道の計画を踏まえ、新たに、こどもから若者までを包括的に支える“(仮称)苫小牧市こども計画”の策定に着手いたします。あわせて、医療的ケア児への支援、乳児等通園支援制度や宿泊型の産後ケアの導入など、安心して子育てができる環境を整備するとともに、給付金や医療費の助成、さらにはひとり親家庭への養育費確保支援の開始により、子育てにかかる経済的負担を軽減してまいります。

また、安心して暮らせるまちづくりに当たっては、高齢者や障がいのある方への支援を含む、地域福祉の充実は欠かせません。重層的支援体制の整備により、介護、障がい、困窮など複雑かつ複合化した課題に対応するほか、地域包括ケアシステムの推進や、介護現場の生産性向上に向けた伴走支援に取り組んでまいります。あわせて、障がいのある方に対する合理的配慮の普及と雇用の促進を図り、誰もが暮らしやすい地域共生社会の実現に努めてまいります。

さらには、3月にオープンする市民文化ホール“アートキューブズ”を、市民のサードプレイスとして、また、文化芸術の拠点として魅力を広く発信し、まちの賑わいを生み出す各種イベントやコンサートの誘致を進めてまいります。あわせて、パートナー事業者との公民連携により駅前再整備基本計画を策定するとともに、まちなかへのアリーナ建設に向けた整備手法などの検討を進め、駅周辺の各要素が連動したウォーカブルなまちづくりに取り組んでまいります。

(3) 自然と産業の共生による 経済発展の最大化

世界の潮流となったゼロカーボンへの取組は、地球環境の保全と産業振興の両立を目指す本市にとり、持続的な経済発展を牽引する原動力となります。

試掘が開始された先進的CCS事業や、水素、アンモニアをはじめとする次世代エネルギー拠点の形成など、市内で進行しているGX関連事業について、引き続き事業主体や関係機関と緊密に連携し、ゼロカーボンシティの実現と地域産業の振興に邁進してまいります。

あわせて、国内外の企業に対する情報発信や視察ツアー、トップセールスを交えた戦略的な誘致活動を展開し、苫東エリアにおける次世代半導体関連産業や大規模データセンターなどの更なる集積を図ってまいります。

また、自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例に基づき、安全な生活環境と自然との調和を最優先としながら、遊休市有地を活用した再生可能エネルギーの地産地消に努めてまいります。同時に、昨今のGX施策の進展など、著しい情勢変化を踏まえた環境基本計画の改定を行ってまいります。

さらに、IRを含めた国際リゾート構想については、北海道が“統合型リゾート(IR)に関する基本的な考え方”を改訂する方針であることが

ら、立地自治体として北海道の検討に即応できるよう、構想の更新などを着実に取り組み、本市の将来に向けた新たな価値創造に挑戦してまいります。

自治体運営に関する取組

- (1) 市民によるまちづくりの推進
- (2) 健全な行財政運営の推進

まちづくりの目標に関する取組

- (1) 共に支え合い健やかに暮らすまち
- (2) 明日を拓く力みなぎる産業のまち
- (3) 学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち
- (4) 自然と環境にやさしいまち
- (5) 安全・安心で快適に暮らすまち

むすび

本市は、先人から引き継がれた海路と空路という、国内はもとより世界に通じる大きな2つの路があることにより、多様な産業が集積する産業拠点都市として発展してまいりました。

そして今、次世代産業やゼロカーボンといった新たな時代のうねりの中で、本市はまさに、かつてない飛躍を遂げるための重要な局面を迎えています。

私が目指す“選ばれるまち 苫小牧”の実現は、行政の力だけで成し遂げられるものではありません。市民一人ひとりが主役となり、多様な個性が輝き、互いに支え合いながら新たな価値を創造していく、そのような“市民総活躍”の姿こそが、次代を担う子どもたちが自らのふるさとに誇りを持ち、夢を描けるまちの礎となります。

市民や議員の皆様のお力添えをいただきながら、私はどのような困難にも怯むことなく、未来を信じて“挑戦”を続ける強い決意を持って、令和8年度の市政を推進してまいります。

掲載内容は要約です。
全文は市役所2階市民
情報コーナー、各出張所、
市HPでご覧になれます。



▲全文はこちら